

【千葉日報社長賞】

あらい えつこ
新井 悦子

だいすき。ずっといっしょにすもうね。

恋人に言うようなセリフだけど、これは5歳のあなたが私によく言う言葉ですね。

そのまっすぐな瞳と気持ちは心から好きだという思いそのもので、

嘘偽りは微塵もないことは家族のだれが見ても明確。お父さんも負けを認めています。

3人目だったあなたの出産はビックベビーのため、とても大変でした。

ふたりの姉より随分大きく誕生したのに、言葉や動きはそれに比例しないみたいね。

家族の愛情に包まれて、自分のペースでゆっくりと成長するあなたと歩んだ日々。

そんな我が子が話をするようになったら、どんな感じなんだろう。とっていたけれど、

ある時から著しい成長を遂げ、しっかりと会話できるようになりましたね。

私が咳をしていると「ママ、大丈夫？」と近くにやってきては心配そうな顔。

優しく、嬉しくて、涙が出そうでしたよ。

あなたを授かった時の喜びや、出産した日の何とも言えない幸福感は、私の財産。

日々笑顔にさせてくれる行動や言葉、成長に触れる瞬間。

日常の中にある幸せが母の生きがいです。

ママ、だいすき・・・

成長と共に消えていくでしょうね。

本心は寂しいけれど、たくさんたくさんあなたからもらった愛情で満たされています。

これからも変わらず見守らせてね。

大切な、大切なあなたへ。いつまでも、大好きよ。

(神奈川県/41歳/女性/主婦)

入賞者の作品への大切な想い

大切は人への想いを気持ちや言葉だけでなく、文章にして残したいと思っていました。